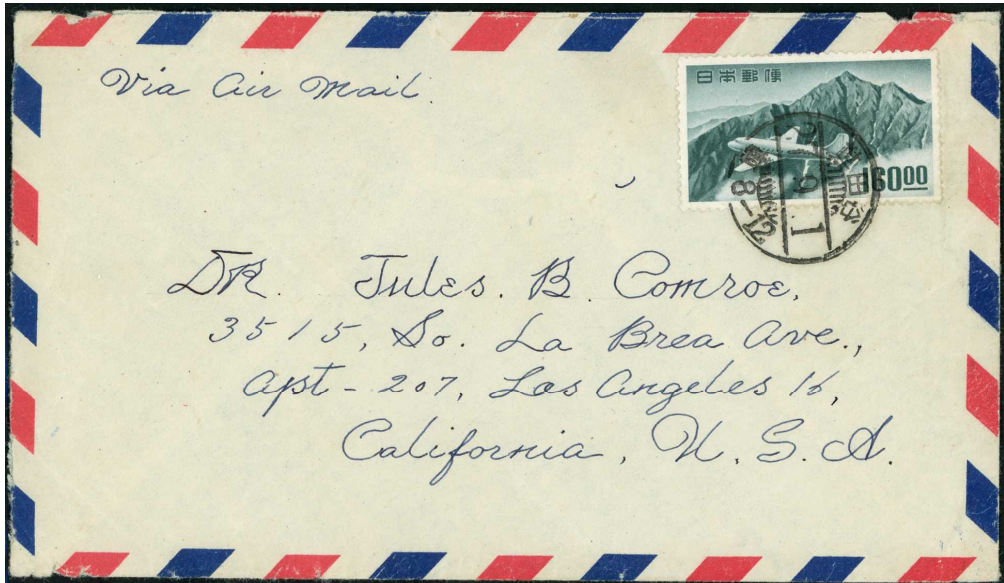


銭単位立山航空 160 円 1 枚貼りの航空便

永吉 秀夫



世田谷 S27(1952). 9. 1 → 米国

立山航空の各額面は、外国あての航空便料金に合わせて選ばれています。最高額 160 円は第 5 地帯(アフリカ中南部、南米)あての書状・葉書料金に対応していますが、その 1 枚貼り適正使用例は、お宝級の希少品となっています。

紹介品はそのお宝級の... と言いたいところですが、残念ながら(というより「当たり前のことながら」)そうではなく、最もありふれた第 3 地帯(米国)あて 80 円料金の 2 倍重量便です。もちろん 80 円切手の 2 枚貼りでも対応できたのですが、需要の少なかった 160 円切手を流用しています。

差し立て日の 1952 年 9 月 1 日には、すでに円単位の立山航空が発行済みですが、貼られている切手は銭単位の切手です。近年こういう使用例は、非適応期間使用として格下に見られるのが常ですが、普通切手は新切手が発行されたあと「だんだんと切り替えられていく」ものですから、極端にあとから使用されたものでない限り、そんなに目くじら立てるほどのことではないと思います。しかもこの立山航空は銭単位・円単位混在使用期間中に次の料金改訂となり、在庫切手がお蔵入りしてしまいました。その後 10 年以上経って別納処理された切手の中に、銭単位の切手もかなり含まれています。

押されている消印が和文印なのは多少残念なところですが、まだ欧文印は限られた大局でしか使用されてなかった時代です。世田谷局がどうだったかを調べるのをサボっていますが、まあ許容でしょう。

会報 269 号で紹介した文通週間切手貼りカバーの中でも書きましたが、外国あての郵便でよく使われる横幅 24cm サイズの横長封筒は、アルバムリーフに整理するとき困りものです。その点では本品は理想的な姿をしていて、余裕をもってリーフに 2 点貼ることができます。80 円 2 枚貼りのカバーと一緒に貼りたいものです。